

令和 2 年

オリンピック・パラリンピック
推進特別委員会会議録

と き 令和 2 年 9 月 2 8 日

品 川 区 議 会

令和2年 オリンピック・パラリンピック推進特別委員会

日 時 令和2年9月28日（月） 午前10時00分～午後2時33分
場 所 品川区議会 議会棟6階 第1委員会室

出席委員	委員長 石田 ちひろ 君	副委員長 渡部 茂 君
	委員 鈴木 真澄 君	委員 湯澤 一貴 君
	委員 西村 直子 君	委員 木村 けんご 君
	委員 松澤 和昌 君	委員 こんの 孝子 君
	委員 つる 伸一郎 君	委員 新妻 さえ子 君
	委員 安藤 たい作 君	委員 筒井 ようすけ 君
	委員 田中 さやか 君	

出席説明員	和 氣 副 区 長	堀 越 企 画 部 長
	佐藤 企画調整課長 （計画担当課長兼務）	山崎文化スポーツ振興部長
	古巻文化観光課長	中元スポーツ推進課長
	辻オリンピック・パラリンピック準備課長	

○午前10時00分開会

○石田（ち）委員長

ただいまから、オリンピック・パラリンピック推進特別委員会を開会いたします。

本日は、お手元に配付しております審査・調査予定表のとおり、特定事件調査、報告事項、視察およびその他を予定しております。

本日の委員会も、これまでと同様に、委員長会で協議、決定いたしました内容に則り、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員会室のレイアウトを変更しておりますので、ご了承ください。

最後に、本日も、特に会議時間が長時間にならないよう、効率的なご質疑にご協力をお願いいたします。

1 特定事件調査

レガシー政策に関すること

○石田（ち）委員長

それでは、予定表1の特定事件調査を議題に供します。

前回の委員会の最後にご案内したとおり、本日は、レガシー政策に関することで、区独自ボランティア「しな助」について取り上げます。

東京2020大会延期や新型コロナウイルス感染拡大の影響で、現在、活動がままならないしな助ですが、このコロナ禍における活動の方策、さらに大会後の展開について、理事者よりご説明いただき、委員の皆様には、それに対するご意見や積極的なご提案をいただき、活発な議論をしていきたいと考えております。

それでは、理事者よりご説明を願います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

それでは、私から、レガシー政策に関するこのうち、区独自ボランティア「しな助」の活動についてご説明申し上げます。A3の資料をご覧ください。

まず、しな助の発足の経緯でございますが、東京2020大会に向けて、区主催スポーツイベントの運営補助、研修活動等を通じて、大会開催とボランティア精神の機運を醸成する、区全体で盛り上げていこうということで開始をしました。ボランティアに関しましては、組織委員会、それから東京都がそれぞれ募集をしておりましたが、いろいろな制約がございまして、大会中に10日以上は従事してくださいとか、少しハードルが高めでございました。私どもは、そこまではできないけれども何か関わりたいなという方を拾い上げるといいますか、広く募集するということで活動を続けているものでございます。

まず、1の(1)の団体でしな助でございます。個人の募集の前に、しながわサポーターという形で団体版のしな助を募集して活動をしておりました。こちらは平成28年から開始をしまして、現在、登録の団体数は34団体でございます。企業もございまして、一般の任意団体といいますか、非営利組織の団体もいらっしゃいます。主な活動実績としましては、ビーチバレーボールフェスタですとか、1000日前フェスタ等のイベントに出させていただきました。延べで46団体の団体に協力をしていただいております。

このしながわサポーターとまた別に、その他の活動ということで、2種類挙げてございます。こちらの花壇でしな助というものでございますが、これはみどりや花のボランティアの方や高齢者クラブの

方に、東京2020大会の3競技を応援しようということで、昨年度、3キャラクターをつけた、花壇に挿すプレートをお配りしまして、お花を植え替える際に立てかけていただいて、町全体で盛り上げていこうということで実施をいたしました。今年度に関しましては、新型コロナの影響もございましてお配りはしておりません。

それから、もう1点の清掃deしな助なのですが、町全体をきれいにしておもてなしの精神を来訪者にお見せしましょうということで、清掃活動をしている団体にしな助の柄のついたマフラータオルをお配りしまして、清掃活動のときにご活用いただいております。

引き続きまして、個人のほうのしな助についてご説明を申し上げます。こちらは、平成30年9月から募集を開始して、現在、登録者数が527人でございます。主な活動実績でございますが、スポーツフェスタOZ、これは2年前、1年前ちよどを記念したイベントでございます。こちらですとか、ウィルチェアーラグビーの体験会、それからパラリンピック啓発イベントなどのイベントで活動していただきまして、これは延べで339の方が従事しております。

その下、その他の活動としては、ロンドン大会のときのボランティアをした方の講演会ですとか、あとは、ワークショップとかリーダー研修・緊急時対応研修などを実施しておりまして、こちらのほうは延べで142の方が参加をしております。

その下、(3)今後の活動予定でございます。現在、新型コロナの関係もございまして、大きなイベントというのはやっておりません。今やっているのは、英会話の研修をYouTube等で配信しているというところでございます。今後なのですが、おもてなしに関しての研修ですとか、英会話研修やワークショップ等を、まず研修や育成のメニューとして考えております。

それから、機運醸成としては、大会時に開く予定のホスピタリティハウスの運営の補助ですとか、大会レガシーに関するイベント等、機運醸成のイベントの従事していただくこと。

それから、大会時には、一番大きな聖火リレーのとき、かなりの人数が必要となりますので、聖火リレーのルートやセレブレーション会場での整理ですとか、大会中に会場までのラストマイルにおける暑さ対策のグッズを配布するですとか、あと、交通の要所ということで、大井町駅、天王洲アイル駅での大会会場までの乗り換えの案内等を予定しております。

引き続きまして、2、しな助の活動アンケート結果についてご報告申し上げます。こちらは、しな助の方がどのような属性と申しますか、年代ですとか、性別ですとか、どんなことに興味を持っていて、どんな気持ちでこちらに参加をされたか、また、終わった後にどのような活動をしてみたいかとか、活動の意思があるかどうかも含めまして、まず分析をしてみようということで、今年度に入ってからアンケートを実施しました。

アンケートは、回答率としては26.9%ということでございます。男女比では、女性のほうが多い、35.7%と63.6%ということでございます。年代別で見ますと、一番のボリュームゾーンが50代、その前後の40代、60代が20%程度という結果になりました。地域別には、大体ばらけてはおりますが、区外の方も参加しています。区に在住している方という縛りは特にかけておりませんので、近隣の方なども参加をしていらっしゃいます。

その下、大会時の活動や、これからの研修の要望としては、記載のようなものが挙がりました。やはり、新型コロナウイルスが心配なので、ボランティアに従事するとしても感染症に対する対策を検証してほしいですとか、語学に心配があるので研修をしてほしい、それから、道案内で接遇をするときの実地研修を、本来、今年の夏に予定していたのですがけれども、なかなか感染症も収まりを見せませんでし

たので、実施できなかったのですけれども、そうした実地研修ですとか、あとはボランティアとしての心構え、それから、品川区の観光情報をいろいろ知りたいというようなご意見もございました。

それから、ボランティア活動の継続についてのご質問もさせていただきまして、回答者の7割以上が、開催後も何らかの活動をしてみたいということでした。その活動の内容については、下の表に出ているのですけれども、割とばらけておりまして、文化・芸術・スポーツに関係するものというのが一番多いのですが、それ以外にも、国際協力ですとか、まちづくりとか、環境面のものなど、いろいろな興味関心があるというような様子が見てとれたところでございます。

それから、3のアフターオリンピック・パラリンピックについてでございます。2のアンケートの結果を分析した結果としましては、社会貢献に対する意識とか、キャリアというのに、かなりの差があるというような印象がございました。つまり、本当におもしろそうだから始めてみたというレベルの方から、中には、ラグビーワールドカップや東京マラソンなどでスポーツボランティアをもうばりばりやっていたらっしゃる方もいるのです。かなり幅があるなという印象がございました。

私どもとしては、例えば、文化観光課で区民大学等もやっております。アンケートの要望の中でもあった、品川区のことも知りたいというような話もございまして、いろいろな学びを提供しながら、その学びを自分だけのものにしておくのではなくて、それをまた区民に還元するですとか、地域に還元するというようなご案内をしていくというのが、まず一番のベースにあるかなと思っております。ということで、まずは学びの継続で、機会の提供や紹介をするということが1つございます。

アンケートの中でも、こういう活動をしてみたいといういろいろな要望もございましたので、そういった興味のある分野への情報提供、それから、参加を促進していくということで、もう現在あるNPO団体ですとか、地域の団体ですとかを、こういうところがありますよ、こういうところが募集しておりますよということ、うまく紹介してつなげていけたらなというのがもう1点ございます。

それから、何とかしな助をそのまま残してほしいというようなご要望も、ボランティアのメンバーの方からもいただいていますし、委員の皆様からもいただいているところでございますが、しな助はオリンピック・パラリンピックに向けた団体ですので、一旦は、大会終了後には解散をする予定でございます。しかしながら、この間ずっと活動する中で、区のスポーツイベント等に協力していただくことで、区の施策を知っていただいたり、しな助もこういう単発イベントでの活動を希望しているのだということも、アンケートでも見てとれましたので、違う形ではあるかもしれませんが、どこが担当するかなどいろいろな課題はあるのですけれども、どのような形で体制を維持していけるのかというのは、今のところ検討中ということで考えております。

○石田（ち）委員長

説明が終わりました。

今期の委員会では、委員・理事者間の質疑応答にとどまらず、委員の皆様同士での活発な討議を中心にして進めていきたいと考えております。ぜひ、積極的にご意見・ご提案等をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

それでは、本件につきましてご質疑・ご意見等がございましたら、ご発言願います。

いかがでしょうか。

○安藤委員

資料で幾つかお伺いしたいのですけれども、まず、個人でしな助のワークショップというのが、活動実績とか今後ともということであるのですけれども、具体的にはどういうことをやってきたのか、それ

からやっていくのか、今後は何回ぐらい行う予定なのでしょうか。それが1つですね。

それと、アンケートですけれども、今年度に入ってから実施ということで、具体的にいつとったのかというのを伺いたいのと、あと、ボランティアということで自分から手を挙げていただいた方々だろうと思うのですが、そういうふうにと考えると、少し回答率が低いのかなと思うのですが、その原因が何なのかというのが2点目ですね。

それと、下のグラフの表にある赤と青の色が付いていますけれども、これは何を示しているのかなというのと、最後、一番下のアフターオリンピック・パラリンピックのところ、学びの継続ということで、機会の提供とありましたけれども、具体的には、何を提供するのかなというのを聞かせてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

何点かご質問をいただいたのでご回答します。

まず、ワークショップなのですが、今まで実施したものに関しましては、まず、ボランティアとして参加する方で、大会ボランティアや都市ボランティア、組織委員会や東京都が募集しているものと違いが分からなくて申し込んでくる方も非常にいらっしゃいましたので、しな助との違いですとか、目的などを共有するというのと、メンバーの仲間づくりというのがございました。そういったものを今まではワークショップとしてはやっております。

何回か活動する中で、その中でリーダー的な方を育成していこうという目的で、ワークショップを企画していたところで、新型コロナの関係で中止になってしまったというところがございます。今後なのですが、今後と同じように、このステップアップ研修ですとか、それを全体の一方向的な講義ではなくて、情報提供をしながらグループ別で話し合っ、ご自分たちでいろいろ考えていただくというようなワークショップで考えているのが、中止になってしまったリーダー的な方に対する研修とワークショップ等を、今後は考えております。

それから、アンケートの時期なのですが、配布したのがたしか今年度に入って5月頃でございます。回答率が低い原因ということでございますが、もともとしな助を募集したときに、必ず参加できる方というようなことではなくて、情報が知りたい方でも結構ですというような、割と大ざっぱなくくりで、緩い感じで募集しております。そういった意味で、参加しないで日々が経ってしまって、興味が少し薄れてしまった方もいらっしゃるのかなということと、それからやはり、5月ぐらいですと、新型コロナウイルスが蔓延して、オリンピック・パラリンピックに対する気持ちというのが、皆様、何となく低くなってしまったような時期でもあるのかなというような分析はしております。

それから、機会の提供方法ということですね。学びの継続ということで、文化観光課のほうで、例えば、学びの杜というのもやっております、それから区民大学ですとか、年齢的にもう少し上の方ですとシルバー大学もございますし、大学との連携の講義もございます。また、文化観光課だけではなくて、例えば、観光協会のほうでも品川観光に関するガイドなどを募集しておりますので、そういったところの勉強会に参加していただいたりですとか、あとは、英会話をもっと進めたいという方でしたら、国際友好協会が実施しているようなものもご案内することも可能かなというふうに思っております。

○石田（ち）委員長

グラフの表の色は。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

失礼しました。

1点、色の付いたところですね。これは数字が高めのところで、ピンクと青というのは、ピンクが女

性が多く偏っているもので、青が男性が高いというようなことで色が付いているところがございます。

○安藤委員

分かりました。

その機会の提供というところでは様々あると思うのですが、具体的に案内をするということで考えていらっしゃるのか。例えば、学びの杜ですとか、国際友好協会の英会話の機会もありますよとか、そういうのを、ボランティアに具体的に、何か書面なのか分からないのですけれども、案内していくということなのでしょうかとこののを伺います。

それと、戻ってしまうのですけれども、「回答者の7割以上が大会後の活動も検討している」と書いているのですけれども、これはそういう質問をして、七十何%がそういうふうに応えたということなのでしょう。具体的なところが書いていないので、何を根拠にそういうふうに言っているのかなというのが分からなかったもので、そこは確認したいと思います。

それと、アンケートの結果のところ、様々、今後の興味がある分野のグラフが出ていますけれども、「人権擁護・平和推進を図る活動」というところが突出して低いなというふうに思いまして、その原因は何なのかな、どういうふうに考えているのかなというのを伺いたいのですけれども。と言いますのは、オリンピック憲章があると思うのですけれども、これは第一次世界大戦での未曾有の被害を受けて、その反省と決意を込めて定められたという経緯があると思うのです。このオリンピック憲章には、「オリンピズムの目的は、人間の尊厳の保持に重きを置く平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである」というふうに書いています。あるいは、人権というところで、パラリンピックも開催するという点もあると思うので、こういう点に照らしても、この人権擁護・平和推進を図るというこの側面の、区だけではないかもしれないのですけれども、今回の東京2020大会の打ち出しというのはかなり弱かったのではないかなというふうに思うのです。ここが1つここに反映しているのかなと思ってしまったのですが、なぜ低いのかということと、あと、そういった意味では、大会のオリンピック憲章にある人権擁護・平和推進というところは、もっと打ち出していく必要がある、改善が必要なのではないかなというのを伺いたいです。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

まず、学びの継続に関する提供の方法なのですが、今のところは、どういった方法でというのは、まだ検討中でございます。ただ、例えば、広報に載っているからそれを見て下さいねというのではなくて、もう少し親切にといいますか、分かりやすく提供できるような方法はないかなというふうには考えているところがございます。

それから、7割以上が大会後の活動も継続を希望しているというところなのですが、これは委員ご指摘のとおり、質問の中にそういう設問がございまして、その結果としてこういう形が出ております。

それから、活動の、どういったことをしたいということに対する分析です。1つひとつに対する分析というのは、そこまではし切れておりませんが、全体としては、まず、オリンピック・パラリンピックに関わりたいということで、まずスポーツが好きの方が多のかなという印象はございます。人権等に関する活動ということで、オリンピック・パラリンピックにはいろいろな目的といいますか、人権問題もございまして、多様性と調和というようなこともございます。そういったことも含めまして、いろいろな側面がございまして、そこが弱いかどうかというのは、この場では、ここは非常に強いとも、弱いともは言えないのではないかなというふうに考えております。

○安藤委員

非核平和都市品川宣言というすばらしい内容の宣言を自主的に持っている品川区なので、これは品川区だけに限らないといえますか、オリンピックの意義という点で、まだまだそういう点が弱いと思っているので、普段からこういうところに関心を持っている人というのは、全体から相対的に見れば確かに少ないかもしれないのですが、だからこそ、オリンピックを契機に、パラリンピックを契機に、こういったところをやはり強めていくというか、重要さというのを醸成していくというところにもう少し力を入れていただきたいなというふうに思います。

それと、7割の方が大会後の活動も検討しているということはすごいことだなというふうに思いますし、学びの継続の機会の提供の方法は検討中ということなのですが、いろいろ強弱はあるかもしれないのですが、7割以上の方が何らかの活動に興味を持っているということなので、そういった方々の思いを実現できるような場を提供するという点では大事なことだと思いますので、ぜひしっかりやっていたいただければと思います。

最後に、全体に関わることだと思うのですが、9月7日にI O Cの副会長が、「コロナがあろうとなかろうと開催する」という発言をして、ちょっと波紋がありましたけれども、それを受けて、9日にバツハ会長もコメントを出していましたが、「安全で成功した大会を提供できるよう、引き続き注力していく」というようなことで、一連のこの発言があったのですが、品川区のこの大会に向けた取組への影響とか変化というのは何かあるのかなというの伺いたいと思います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

9月に入りまして、随分、大会に関するいろいろなコメント等の発表があったというふうに認識しております。

品川区におきましても、大会が延期になってから、どういうふうに次は動いていくのか、大会開催の可否についても分からないままということで、東京都や組織委員会からも、なかなか、母体が何も決まっていないので下りてこないというような、右も左も見えないような状況が続いたことは事実でございます。その中で、9月に入って、少しI O Cのほうの発言がありまして、また、東京都や組織委員会、それから政府を含めたコロナ対策調整会議ですとか、あとは、簡素化に関する会議というものが、ちょうど先週ぐらいに開かれて、それも発表になっております。

ですから、今時点では、その状況を注視しながら、東京都や大会組織委員会と連携しながら進めていくということが実情でございます。これからだんだん動いていくのかなというふうに考えているところでございます。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○筒井委員

しな助の活動アンケート結果についてなのですが、もちろん、地域の人口比はあるかと思うのですが、地域別で、品川地区が27.5%と突出して高いのですが、この点についてどういった分析をされているのか、どういうふうにお考えなのか、お聞かせください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

地域別の差についてのご質問かと思えます。こちら、掲載していますとおり、品川地区が27.5%と、各地区について見ますと少し高めになっているところがございます。この分析なのですが、やはり1つは、ホッケー競技場が大井にあるということも影響しているのかなという、身近にあるというような気持ちがあるのかなというふうな思いはございます。あとは、地域別の人口等の関係も

あると思います。私どもがしな助の方たちと接する中で、そういう地域差というもの実感としてはあまり感じていないので、1つは、今言ったような、ホッケー競技場が大井にあるということも関係するかもしれないのですが、実態としては、それほど地域差というのは感じたことはございません。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○鈴木（真）委員

今のアンケートの関係ですけれども、この数字というのは、アンケート回答者でのバランスですよ。申込みをした時点で、区として状況をつかんでいると思うのですけれども、それとこの数字ではあまり変わらない状況ですか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

500人の分析ということで、申し訳ございません、今、確実な数字は持ち合わせていないのですが、記憶の中で言うと、大体これと同じような状況でいると思います。

○鈴木（真）委員

区外の方が34%、申込み自体はもっと多いと、ちょっと心配だなと思ったのが1つあったのと、前から我々もお願いしていたと思うのですけれども、これから、地域との連携をまたもっていただきたいという非常に強い希望があるのです。今、こういう方たちが、例えば地域で活動しているとか、そういう確認はとっていないのかな。今までの活動実績とか、自分はこういうのをやっていますよなどというのは、その辺はあまり把握していないのでしょうか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

地域との連携というご質問でございます。このアンケートの中にはそういった設問は入れていないのですが、今まで接した関係やワークショップでお話しした感じで言いますと、今まで地域で活動していなかったという方が多いという印象でございます。今までは、地域で何かするとか、そういったことはしたことがなかったのですけれども、今回初めて何かおもしろそうだからとりあえず来てみましたというような感じで、気軽に来ていらっしゃる方がとても多いと思います。

今も委員ご指摘のとおり、この方たちが継続して地域にもまた入っていただくと、非常に盛り上がるなと思っていて、年齢層で言いましても50代の方が多いということで、今までの地域での活動をしている方よりも若干若いという印象がございますので、ぜひ、地域の力になってくれたらいいなというふうには思っています。

○鈴木（真）委員

まず、このオリンピックに向けての活動をしていただくのが先なので、あまり次の話をしてもいけないと思うのですけれども、今現在、地域でこういう活動もあるんだよということも少し匂わせるというか、そういうのもあるから今の段階でもどうですかみたいなお声もかけてもらいたいと思うのですが、これはぜひ考えていただけないでしょうか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

私どもは、ぜひそういうふうにつなげていきたいなと思っております。始まる前からあまり押し付けがましくなるのも難しいかなと思ひまして、一応、資料の3の(2)のところの、「興味・分野の情報提供・参加促進」の中で、地域での活動にはこんなことがありますとか、あとは、地域に合った目的別ですね。スポーツであるとか、環境であるとか、教育であるとか、そういう活動をしているところはこのようところがありますというのを、ほかの課で社会貢献活動見本市などというのもやっていますけれ

ども、そういうのを紹介したり、それ以外にも地域の活動をいろいろ紹介できるような機会を作って
いってみたいなというふうに、今のところ思っております。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○つる委員

ありがとうございます。

今、鈴木真澄委員のほうから、実際の登録いただいている方の年代別についてはほぼ同じということ
で確認ができたので。その中で、区外の34.5%なのですが、これは今、手持ちにないということ
だったのですが、その中で、在勤者とか在学者のその内訳は、それも分からないですね。はい。分かり
ました。

あと、団体、個人、それぞれにアンケートを取られたのでしょうか。そこだけ教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

区外の方が在学か在勤かというのは、申し訳ございません、そこはとっていないので、分かりかねる
ところでございます。

今回のアンケートは個人向けだけでして、団体のほうについてはアンケートはとっておりません。

○つる委員

7割の方が大会後の活動も検討していただいているということで、非常に品川区としては心強い回答
なのかなというところと、あとは、今現在においては、資料の2の(1)の要望の中に、感染症対策が一番
に挙げられているということは一番大きい声だったのかなと思うのですが、本当にそういう中でボラン
ティア活動を積極的に考えていただいているというのは、本当にありがたいことであるかなと思う中
では、当然、そうしたボランティアの方々に対する感染をさせない予防の様々な備品というものは用意さ
れているという理解ではいるのです。

それはそれとして、3の、今後しな助を残してほしいという声はあるけれども組織としては一旦解散
をして、どういうふうにするかというのは検討中ということで先ほどあったわけですが、社会福祉協議
会等との連携なのか、それとも、総合的な企画調整という意味での企画部門等でのことなのか。当然、
アンケートの中の細かくは、得意分野や興味も含めていろいろばらつきはあるわけですが、それ
ぞれの担当課につなげていくとかということにするのか、それこそ人材バンク的に、どこか一括りにす
るのか。せっかく継続的にやっていただいたこの力を、やはりそのまま衰退させるというよりも発展さ
せていくという方向性でご活躍いただくというほうがいいのか。年代別もそう変わらないとなった
ときに、50代の方が34.3%と多いのは、世代的には60代とかのほうが多いのかなというイメ
ジがあったのですが、メインがオリンピックに関わることなので、比較的、体力的な部分ですとか、時
間的な部分で、この世代が多かったのかなと思うのですけれども、そう考えると、地域で今後も継続
的に長くボランティアをやっていただくというのは、非常に大きな人材なのかなという理解の中では、今
現在どういう検討を、その先ですね、もう考えていらっしゃるのかというところがあればということ。

続けて、今、今後の大会自体もどうなるかということですか、当然、放映権であるとか、放送につ
いての権利などというのは、IOC、JOCであるとか、大きい括りになって、パブリックビューイン
グであるとか、そういったことになってくると思うのですけれども、今、プロ野球であるとかサッカー
であるとか、それも観戦者数を徐々に緩和していくという大きな流れはそれはそれであるにしても、
大会自体の視聴方法の、これはテレビとかで放映するのでそこまでではないのかなと思うのですが、そ

の上での一体感を持ちたいような視聴のあり方となってくると、例えば、日常の中であるリモート対応ができるようなボランティアスタッフをあえて募集するとかということも、イベント性を持たせて何かしらそういう展開を品川区として持っていくときに、競技そのものを見るのは1つの画面でいいと思うのだけれども、その見ている人たちの一体感というのでしょうかね。それを出していくとなってくると、いろいろなリモートのツールを活用することによって一体感を品川区内で生むことができるのかなというところを考えたときに、そういったことに長けた方々、そういう意味では、この在勤者の中にはそういうIT関係の方もいらっしゃるのではないのかなと思ったので、先ほどお聞きしたのですけれども、その辺の今後のボランティアの改めての募集の方法というか、その辺あたりも含めて教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

まず1点目の、残した場合の運営の方法等のような検討をということでございますが、今まさに、「研究中」と書いているぐらいで、まだ本当にいろいろ悩んでいるというのが実情でございます。

今委員もおっしゃったボランティアセンター、これはやはり福祉のほうに非常に長けておりまして、福祉の情報は入りますし、紹介もできるけれども、私どもがやっているようなスポーツイベント的なものは、今まではあまりやったことがないというようなところもございます。人材バンク的なボランティアバンクみたいにするのか、名前をそのままなのか変えるのか分からないのですけれども、幾つかのグループにして、区のイベントがあったときにそういう情報を提供するのがいいのか、その場合、どこが所管になるのが一番適切なのか、ボランティア全部を集めたほうがいいのか、スポーツボランティアだけで結成したほうがいいのか、いろいろなやり方があると思いますので、他区の事例や東京都の事例、いろいろなものを研究しながら、品川区に合った方法というのを見つけないかというふうに思っております。

それから、視聴方法とその一体感という話でございます。今年開かれた場合はパブリックビューイング等も予定しておりまして、皆が1つのところに集まって、そこで一体感を持つというのが、ラグビーワールドカップのときもそうでしたし、そういうふうにやるものなのだなというふうに私どもも思っております。しかしながら、これからコロナがある中で開催されるようになったときに、やはりそれはなかなか難しい。1つのところに集めて、多くの人という形は難しい場合に、今委員にご指摘されたような、リモートの中で一体感を持つというのは、私どもも非常に大切だと思っております。そういった方の講習会とか、そういうのがあったらどうかというご提案でございますが、1つ、団体d eしな助の中に、IT関係の企業も団体として登録されてございますので、そういった方にご相談をさせていただくですとか、あとは、五反田バレーのほうに、新しい会社、IT系の企業がたくさんございまして、新しいものをどんどん作り上げているような企業が本当に、たくさんあると思いますので、そういったところに相談するなどしまして、リモートでも皆が一緒に応援できるというような体制というのはどういふのがあるのかなというのは、今まさに考えているところでございます。

11月にはブラインドサッカーの大会もまたリモートでやりますので、その中でも、ブラインドサッカー協会とも相談をしながら、見ている人もどうやって応援をして、どうやって一体感が出るかというのは、何か仕掛けをしてみたいなというふうに思っているところでございます。

○つる委員

ありがとうございます。

今の、リモートなどを活用した、区民の方の一体感をどう作っていくか、それは、今いろいろな形で、それこそ世界中の方が一定の時間、本当に同じ出来事を共有して、まさに区の一体感を作って、

1つの達成感、そうしたものも共有できるという意味では、そういったノウハウのある企業もあるということなので、産学連携ではないですけれども、そういったところも含めて、何か1つ品川区としてできること、これを具体的に進めていただきたいなと思っています。

それから、今日はレガシー政策に関することなので、今、どちらかというとボランティアのことが中心なのですが、今回登録いただいた方を今後どうしていくかということで、検討いただいた部署は全然別なのですが、品川区でもかつてボランティアとかのマッチングサイトに関する費用が計上されて検討していた上で、やはりちょっと難しいよねということで立ち消えになった取組があったかと私は理解しているのです。3、4年前です。別の部署ですけれども。先ほどあったスポーツのこととか、いろいろな分野にというのはありましたけれども、今いろいろな民間でもそうしたマッチングサイトがいろいろある中で、区として、今既存のボランティアのことも含めて、もう少し幅広に、ネット等を活用して、もっとフランクに気軽にできるような、そうしたことも必要なかなとなったときに、これだけの人材がいらっしゃるわけだから、それをきちんと活用できる、そういう仕組みというのでしょうか、これも再度また検討いただいたほうがいいのか。これは、こういうスポーツとか文化だけではない、福祉的なことも含めてになってくる。そうすると、逆にまた難しいとなってしまうのかもしれないのだけれども、であるならば、今回、こういう文化・スポーツという観点で、そういうボランティアのマッチングサイト的なものを作ることによって、そういうIT企業の方にもそれこそ協力いただいてやることで、まさにそのレガシーとして、品川区の大きな財産として、まさに人材の宝として生かしていくことができるのではないかなと思いますので、そのあたりもぜひ検討いただきたいなと思います。これは要望です。

委員長、今日はボランティアのことのレガシーですか。ハード的なレガシーは。

○石田（ち）委員長

その予定だけでも。

○つる委員

また別でしたか。

○石田（ち）委員長

また別ですかね。

○つる委員

分かりました。すみません。ありがとうございます。

○こんの委員

レガシー政策ということで、団体のしな助、個人のしな助ということでもありますけれども、まず、団体のほうのその他の活動で活動されている方の状況をお聞きしたいと思います。花壇deしな助、清掃deしな助という形で、既存の団体の方々が、しな助という形で、オリンピック・パラリンピックに向けて、さらにその活動をおもてなしの活動にいただいていると理解しているのですが、今、このコロナ禍の中でなかなか活動ができないのか、それとも、それでも定期的に活動されているのか、また、このしな助としての花壇であったり清掃であったりする、あえての何か活動があるかというところの現状をまず教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

花壇deしな助と清掃deしな助についてのご質問かと思えます。こちらは、やはり今年、新型コロナウイルスの関係で、特に清掃活動に関しましては少しお休みをしている団体さんがやはり多いかなと

というような印象でございます。同じように、花壇 d e しな助も、高齢者クラブの方ですとか、みどりと花のボランティアの方が、何人かでやるのもなかなか難しいかなということで、今年はそのプレートを配布しないという状況です。

その中で、清掃 d e しな助に関しましては、今のところ4団体が登録をされて、マフラータオルを配っています。あとは昨年、CSR協議会の一環で、大井町近辺を清掃するときにもお配りして、そこで機運を上げていただくということで、このために結成した団体というより、既存の団体に、活動の中でオリンピック・パラリンピックの機運を上げていきませんかということでお声がけをしてやっていたというというのが実情でございます。

また繰り返しになってしまうのですが、清掃に関しましても、なかなか年度当初はコロナの関係でお休みしていた、ここにきて少し動き出しているかなというようなことも、ちらほら聞いているところがございます。

○こんの委員

花壇 d e しな助、清掃 d e しな助ということで、既存の団体の方々が、それぞれの活動の範囲内でされているということだという理解をしました。コロナの関係で、活動したくでもなかなかできない、あるいは、一旦延期だというこの情報の中で、少しトーンダウンしてしまっているというのも、この団体に限らずそうなのだろうというふうには思うのですが、少しずつ盛り返してくると、時期的に皆さん活動を再開されているという状況も、私も感じております。

そこで、この方々の、既存の団体ではあるけれども、あえてオリンピック・パラリンピックへ向けて町をきれいにしよう、おもてなしをしようというところの機運醸成というのは、ゼロから立ち上げていくものではないので、この団体の方々にいかに働きかけていくことによって、そこを起動させていくというのは、ある意味、ゼロの人たちに呼びかけるよりも軌道に乗せやすいかなと、私は思っていたところなのですが、それでも、清掃のほうは団体が4団体ということで、町会なども地域の清掃をしている中で、そこはどれくらい声をかけられて、こういう形でタオルもかけながらやってらっしゃるのかというのは、実際にお姿を見ていないので、どうなのだろうというところですが、その辺のところ、せっかくこういうしな助、区独自のボランティアで、既存の方々に声をかけていくのであれば、その辺の働きかけというところも、もう少し必要なかなということを感じております。その点いかがでしょうかということと、あと、次の質問で、個人のしな助を、ボランティアを、いかにこのレガシーで、財産として残していくかというお話が鈴木真澄委員からもつる委員からもありましたけれども、私もそう思っております。それで、個人の方々をいかにつなぎ止めて、また、皆さんがやれるところと、ちょっとハードルを高くして、やってもらいたいところとということで、つないでいくかというところが1つポイントなのかなというふうに思うと、団体を残してほしいというご意見の中で、皆さんは、これが、オリンピック・パラリンピックが終わった後、解散してしまうということはまだご存じではないということなのですか。もうご存じで、その後、ご自分たちは何をしたいかということで、このアフターについて、(2)の趣味とか分野を聞いて、そちらを促しているということなのか。その辺のところ、皆さんご存じで、もうそういう心づもりでいらっしゃるのか。となると、なかなかつなぎ止めていくのに難しい面もあるけれども、その辺の状況を1つと。あとは、こういう考え方はどうですかということなのですが、この個人で来られた方々が、主にスポーツが好きの方が来られているというふうに思うときに、例えば、スポーツ協会の方々が主催する大会のお手伝いであるとか、あるいは、区民スポーツ大会のお手伝いであるとか、そうしたスポーツに関連するところというのはお手伝いとしてあり

得るのか、サポートとしてあり得るのか。となると、終了後は所管がスポーツ推進課のほうに移行してくるものなのか。その辺、いろいろなやり方があると先ほどおっしゃっていましたが、今、申し上げた、このスポーツ協会との連携とか、区民スポーツ大会とか、その辺との、このレガシーのやり方というのはどうなのでしょうかと、この3点をお願いします。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

まず、清掃 de しな助のお話なのですけれども、大会が延期になる前までは、各町会に地域センターを通して配付を一定数、それほど多くはないのですけれども、全部配ってしまおうというふうな計画もあったのです。ところが、こういった形でなかなか活動が難しくなったということで、今のところ、清掃 de しな助を積極的にPRはしていないのです。幾つかの団体さんに配ったというのも、何か清掃をするときに盛り上げるタオルをいただけると聞きましたなどという形でいらっしゃった町会さんに、そうなのですよということでお渡ししているということが実情でございます。これから、来年に向けてどのような形でやるかというのは、まだ答えが出ていないというのが実情でございます。そういった形で、全部に配って、皆さん、清掃をするときにこれをしてくださいというふうにできるというのが、なかなか感染症の流行の具合と、どうしようかなというところで揺れているというような実情でございます。

それから、個人のしな助の方の活動期間でございますが、これは、いつまでということ、大会終了までということ、最初から銘を打っております。大会が延びたことで来年まで延ばしますということ、ご案内も差し上げているところでございます。やはり、やっている間は盛り上がっていても、こういうのは終わると気持ちが下がってってしまうというのがあると思うのです。そういう中で、つなぎ止めておくとか、次につなげるというのは、終わった後から始めるのではなくて、大会がある前から先のことも少し匂わせるというのは変なのですけれども、こんなこともあるのですよというのは、情報として提供していく必要はあるかなと思っています。それがどのような形なのかというのは、今のところはワークショップ等の中で話をしたりとか、そういうことで少しずつお出ししているところなのですけれども、あとこれから、しな助に対する研修等の活動が再開をしたときに、いろいろな形で取り入れていく必要があるかなというふうには思っております。

それから、スポーツ大会等の、スポーツ協会などとの連携というアフターオリンピックの話でございます。これも、企画の中で、やはりスポーツが好きな方が多いですので、例えばボッチャがすごく人気になりましたとか、ホッケーも引き続きやりたいねという中で、そういったことのアシスタント的な人を育てるというのもレガシーとして1つかなというふうには思っていたところでございます。しかしながら、それも、なかなか研修会自体を開くというのが、今、厳しい状況ということで、今、ご提案してくださいましたスポーツ協会との連携、スポーツ協会が、例えば区民スポーツ大会の中で、こういった人材がいると非常に助かるであるとか、こういったことで連携をしたいということのニーズも把握しながら、次の展開というのは考えていきたいなというふうには思っております。

○こんの委員

ありがとうございます。よく分かりました。

個人の方々のお気持ちをつなぎ止めて次につなげるという、非常に大変なことだとは思いますが、事前にお知らせをしながら進めているということもよく分かりました。

スポーツ協会の方々のニーズ、確かにそうだと思います。こちらは、スポーツが好きだからといって、あちらの体制もあるかと思しますので、そこはニーズを聞いていただきながらと、1つの案だなという

ふうにお話をいたしました。

ちょっと細かい点ですが、そうすると、個人の興味・分野の情報提供とおっしゃっているところは、もう既にそうしたことの質問というか、相談があるのか、それとも、お一人おひとりに聞いていくみたいな体制なのか、その辺のところは、やり方によっては、つなげるというのは、要するに、来るのを待っているのではなくて、どのような形でしたいですかというふうアプローチをしていくことによってニーズが分かるし、つなぎができると思うので、その辺のやり方はどのような状況でしょうか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

興味がある分野の聞き取り調査というのは非常に大切なことかと思っています。先ほどのお話の中で、例えばマッチングサイトというのは非常に便利なのですね。やりたいというご本人が自分で探してそこにたどり着けるということで、1つはマッチングサイトみたいなものは重要なかと思っていますのだけれども、それだけではなくて、今、委員のご指摘にあったような、個別の対応というのがボランティアにとって非常に大切で、コミュニケーションをしているうちに、ああ、こんなものもあるのだとか、こういうことを実はやったらおもしろそうですねよみたいな提案をこちらからすることで、興味の分野の範囲がまた広がるということもございます。ですので、形としては、まず全体に知らせる、それから、個別の対応をいただくということで、相乗効果があるのかなと思っています。

今、現在のところは、アンケートはとりましたけれども、終了後に何をやりたいとか、1人ひとりの対応というのは特にしておりませんので、いろいろなものがあるよという大きな範囲でのお知らせは、これから活動が再開したときに、少しずつ、小出しといえますか、していきまして、その終了後には個別に対応することも必要になってくるのかなと、それが一番大事なのかなという、人と人とのコミュニケーションの中でできてくるものもありますので、そこも大切にしたいなと思っています。

○こんの委員

ありがとうございます。今、課長さんがおっしゃってくださった個別の対応というのは、私も本当に大事だというふうに思います。この五百何人の方を全部個別にということではなくて、その中で、やはりサイトも作り、そして個別でも対応するよと、この対応は非常に大事だというふうに思いますので、このレガシーとして、この方々、人材を残すという意味では、大変ですけれども、その辺の個別対応とかいうところも丁寧に今後考えていっていただければと、要望で終わります。

○松澤委員

説明いろいろとありがとうございました。

ボランティアレガシーの中で、ちょっと違うのかもしれませんが、幸福度ランキングというのが、子どもたちも含めてあったときに、日本というのはかなり低かったのですね。その中の原因の1つが、社会とのつながりの希薄さというのが明瞭に出ていまして、要は日本人はボランティアを基本やらないという、そういうデータがありました。その理由は様々ありまして、要は長時間労働、日本人はよく働くので自分の時間がないとか、核家族化が進んで子どもを見る人がいない、また、イメージが悪い、日本人は黙ってやるのが美德であるとか、日本人の気質の中につながりをストレスに感じる方が多いとか、いろいろな部分があるのですけれども、このしな助さん、地域活動がほとんどない方も多かったとお聞きしています。やはり、そういう中で、なかなかイメージが定着しない、つながりが広がっていかない中、このしな助という活動は、私も大変すばらしい取組で、いろいろな方が集まっていたので、継続して残してほしいというのはあります。

いろいろ皆さんからもありました、今後、解散した後に、地域に戻してもらとうれしい、地域とつ

なげたいというのがいろいろありましたけれども、すぐに町会に行くというのもなかなかハードルが高いかなと思っているのですね。そういった中、子どもたちに対して、先ほどいろいろお話がありました、スポーツと一緒にやるとか。今、校庭開放というのをやらない学校が多いのですよ。やはり、親の、保護者のストレスになるとか、子どもが集まらないとかという、やはりそういったところに、こういうボランティアを務めた人たちが地域スポーツを教えるという、これがボランティアのレガシーになるのかなと私自身は思うのですけれども、子どもたちにこの方たちが教えるという考え方を、1つどのように捉えているか教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

しな助のアフターオリンピック・パラリンピックについて、活動の種類かと思います。子どもたちに教えるというのがどのレベルか分からないのですけれども、1つ考えているのは、レガシーとしてホッケー等が教室等を続けるのであれば、その中のアシスタント的な位置づけですね。そういったものは考えてはいるところでございます。

それから、校庭開放のときに教えるとなると、かなりそれなりのレベルがないと難しいのかなというような、実感としては今何となくありますけれども、校庭開放がなかなか今ないというのも存じ上げておりませんでしたので、私どもの所管だけではなくて、その辺の地域のニーズをいろいろなところにお問い合わせをしたり、地域の方の声を聞きながら進めていけたらなと思います。地域の方の、こんな人材が欲しいとか、こういった活動が困っているということに耳を傾けながら、そういうのであったら多分しな助とマッチングできるかなというのは、あと1年ございますので、発想をいろいろ考えながらやっていけたらなと思います。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○新妻委員

ありがとうございました。

オリンピック・パラリンピックが1年延長されて、予定どおり行われていたら、今回の委員会が、しな助の活動を今後どうしていくのであろうかというようなことが、具体的に話されていた場になっていたのだらうなと思います。今回、527名に送付をしていただいて、142名の回答があって、これは決して低くない回答かと思いますが、527名のうちの142名というのが、特に意識を持って、今後も地域の中で大変活躍いただける方であろうという数なのかなというふうにも受け止めています。来年のオリンピック・パラリンピックの開催も、コロナがどうであれ、縮小体制でしっかりと感染対策をとりながらやるというような方向性も出ているものの、実際にどうなるか分からないという中で、このしな助さんの方たちも、自分たちの活動が一体どうなっていくのだらうかと、そういう不安も抱えていらっしゃる方もいらっしゃるかと思います。開催にあたっては、東京2020大会が、新たな形でのオリンピック・パラリンピックの開催のモデルになるであろうと言われているような、大会が開催できたときには、そういう中でお手伝いをいただく大事なしな助さんであろうなと思いますが、今後の活動予定の中で、3点掲げていただいておりますが、この辺ができるのかどうかということも具体的にまだない中で、レガシーとなる、オリンピックの大事なしな助さんの中の機運醸成が、この間もし何か具体的に決まっていることがあれば、今、しな助さんたちには次にこういうふうアプローチをしていくというところがあれば、教えていただきたいと思います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

先ほどのアンケートの中でも、やはり新型コロナウイルスが心配で、これから先にボランティアをするということになかなか前向きになりにくいというようなお答えもいただいております。これから大会が開催されるにあたっては、まずボランティアさんの安全面とか、そういったこともきちんと考えながら、安心して活動できるような体制は整えていく必要があるかなというふうに思っております。

それから、ではこれからどういう活動をするのかということで、やはり、リアルで集まるのがちょっと怖いというお声も多くて。今のところ決まっているのが、10月中にオンラインでブラインドサッカーの出前体験。去年までは普通にリアルでやっているのをいろいろな団体に提供していたのですが、これをオンラインでやるということで、またつながりを作ったり、コミュニケーションのとり方等を学んでいただくというブラインドサッカーの出前体験は予定しております。

それから、リアルになりますと、年明けになってしまうか、まだ時期は未定なのですが、英会話の研修。これをオンラインと、あとはリアルでもやろうかと思っています。それから、要望の高かったボランティアの心得的なものは、これはオンラインなのかリアルでやるのかは未定なのですが、これもやるような予定になっています。

あとは、年明けになりましたら、感染症対策。こちらのほうは、やはり結構状況が変わったり、新型コロナウイルスにどうやって対応していいのかとか、こういう特徴があるというのも、少しずついろいろ分かってきているので、なるべく最新の情報をお知らせしたいので、これは少し後にしようかなと。でも、やる予定ではございます。

このようにいろいろな形でしな助の方々に、ちょうど10月から提供しようかなという形で考えているところでございます。

○新妻委員

ありがとうございました。

ボランティアの皆様の意識を、やはり維持をさせていただきたいなという思いがあります。コロナで本当に大変な状況の中ではありますけれども、オリンピック・パラリンピックを迎えたときに、ボランティアの皆様が意識高く臨んでいただける、この間であっていただきたいと思いますので、できる情報提供ですとか、様々、安全面とか、コロナに対する情報ですとかも、常に提供していただきながら、品川区の会場が中心になってボランティアとして動いていただくことになると思いますけれども、ぜひお願いをしたいと思います。

それともう1点。ちょっとこれはレガシーと離れてしまうかもしれませんが、オリンピックが1年延びた中で、先日、東京都がオリンピック会場を貸出しをするというお話を伺って、その中にホッケー競技場も入っているということでした。情報を見ても、練習とか、大会の開催とかというようなことが出ているのですが、その会場を使うということで、品川区のボランティアのしな助さんが、そこに何か携われることができるのではないかなというふうにも思うのですが、この間、オリンピックではない会場を使う中のしな助の取組が何かできたらとも思いますが、いかがでしょうか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

東京都のほうから、ホッケー競技場を含む幾つかの会場の貸出しということが発表されております。ホッケー競技場に関しましては、一義的にはホッケー協会に貸出しということで、一般貸出しは今のところしていないのですね。ホッケー教室をホッケー協会とそこの指定管理者が中心にこれから月1回で始めるということで、昨日、経験者向けの教室等を行ったようでございます。そういった形で、少しずつホッケー協会の一般の人が使えるようになっておりますので、このあたり、ホッケー協会のほうとも

相談をしながら、共催で何かできたらなというふうに思っています。その中で、しな助も活動できたらいいかなというふうに思っております。

それと、しな助のリアルでの体験の場といいますか、ボランティアをする場として、そろそろ私どももいろいろな教室、ホッケー教室等もリアルでやるものを検討し始めています。その中では、やはりしな助にご協力をいただいてやろうかなというふうに計画をしておりますので、何よりも参加者としな助たちの安全を確保しながらの活動ということで計画をしていきたいと思っております。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○西村委員

ご説明ありがとうございます。1点だけお伺いさせてください。

以前お伺いしたかもしれないのですが、しな助への周知ですとか連絡方法は、メールを皆さんからいただいて、メーリングリストのような形でお伝えされているのでしょうか。教えてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

そうですね。メールを使いまして、メーリングリストで参加者の募集ですとか、いろいろな情報提供をさせていただいているところでございます。

○西村委員

ありがとうございます。

オンラインホッケー教室が今日締め切りだなということで、私も申し込みたいなと思っていたのですが、そのあたり、オリンピック・パラリンピック準備課の発信が、ツイッターのフォロワーを増やす部分ですとか、情報提供ですとか、メールだと一方向でなかなかグループで会話をするのができないのかなと思ひまして、コロナ禍でなかなかリアルな活動ができませんので、例えば、ツイッターでぜひシェアをしてくださいとお願いをさせていただいたりということも、皆さんにお願ひさせていただいていいのかなと思ひまして。例えばツイッターをフォローしていただいて、最新情報はそちらでもご確認いただきたいですとか。あと、できることは何かなと今考えていたのですが、応援・協力してくださる区民の方の母数を増やしていくということは、皆さんにもご協力いただきながら、今からできるのかなと思ひまして、今後、地域の活動を紹介することなども想定して、そういったご協力もお願ひさせていただいたらどうかというふうに思ひました。ご意見をお聞かせください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

委員ご指摘のとおり、メールはやはり一方向で、会話というふうにはならないところでございます。一方、ツイッターですと、拡散希望だとか、リツイートしてみたいなことをつけて、いろいろなことをやっているところもございまして、まだそれは試したことはないのですが、1回ぐらいやってみたいなというふうに思っております。ただ、ツイッターをやっている人がどのくらいいるのかなというようなことはありますけれども、ゼロということはないと思ひますので、やれることは安全の範囲でやってみたいなと思っております。ありがとうございます。

○西村委員

ありがとうございます。せっかくたくさん発信してくださっていますスタンプのことですとかも、皆さんご厚意でボランティアに参加してくださっていると思ひますので、ぜひ、機会がございましたらお願ひしたいと思ひます。

○石田（ち）委員長

ほかにかがでしょうか。

○安藤委員

しな助の今後の体制については研究中ということで、やはり存続の要望が当事者からも議会からもあるということでご説明があったのですけれども、この前、1年前どうしようか会議というのも見せていただきましたけれども、しな助の方の話も聞いて、先ほども説明ありましたように、今まであまりこういう活動に参加したことがないような方が、率直に、こういうしな助の取組を通していろいろ新しい体験をしていてというのが、すごく新鮮に語られていまして、大事な取組なのだと思わせていただきました。今後については、考えるにあたって、いろいろな、これからも7割の方が何か活動したいという気持ちをお持ちだというのはすごく大事だと思うのですけれども、やはりそうした気持ちを生かす上で、確かに先ほども意見ありましたけれども、既存の町会でやっているような活動とかにストレートに行くかということ、なかなか。そういう思いと、従来の活動というのが、一足飛びには、すぐには直結はしない部分があると思うのですが、そういう地域とかボランティア活動してみたい、そういうことに興味があるという点では共通していると思うのです。やはり大事にしていきたいのは、こういった、今回、オリンピック・パラリンピックを通して、このボランティアを通してつながった皆さんの、このワークショップをやっているというお話はありましたけれども、新たな大事なつながりができたので、その中で、しな助の方自身のアイデアといいますか、思いといいますか、そういうのをぜひ大事にして、それを後押しするような形で今後の体制というのを作っていただきたいというのが意見です。

例えば、シルバー大学とかでもよく聞くのですけれども、区の講座に参加した方々が、卒業した後も、自主的にサークルを作ったりとか、集まりを持ったりとかということはよく聞きますので、ぜひ、そういうしな助の方々自身の思いとかアイデアというのを、区としてもサポートをしていただくような形で、ぜひ検討していただければというふうな思いです。これは意見です。

○石田（ち）委員長

ほかにかがでしょうか。

○渡部副委員長

レガシー政策に関することということで、皆が気にしていた、このしな助がどうなるのだろうと。一定の回答はいただいている、こういう形でというところの中で、今日、多くの委員から、このまま解散とはいえ、これを何とか引き継いでということで、行政もそれは考えているということが確認できました。まだオリンピック・パラリンピックも始まっていないという中で、その後のことを考えなければいけないのですけれども、そこをしっかりと考えておかないと、本当にレガシーとして残っていかないとは思いますので、そこはしっかりと考えていただきたい。

私自身は、ほかの部分でも質問とかもしていましたけれども、やはり社会福祉協議会につなぐべきかなというふうには思っています。つないでいただきたいなと思っています。所管ごとで様々な活動をやるというより、それがまた品川ボランティアセンターの発展にもつながるでしょうし。こうやってアンケートでも意識の高さがうかがえて、様々なことに挑戦いただけるようであれば、だからこそ、やはりボランティアセンターの事務局長さんとお話しいただいて、何かできないかということ。例えば、マッチングにしてもそうですし。では、先ほどもいろいろほかの所管、国際友好協会ですとか、文化・スポーツ振興などにしましても、別に、いわゆる品川区ボランティアセンターというところが軸になって活動を続けていけるのであれば、僕はそれが一番いい形だなというふうに思っています。それが品川区のボランティアセンターの発展につながりますし、万が一の災害等が起こったときに、災害ボランティ

ア、これも社会福祉協議会が立ち上げるものですから、そういうところにも生かせるのかなど、ウィン・ウインの関係かななどというふうに思っているのですが、もう端的に、その辺のお考えというのはどういうふうにお持ちですか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

ボランティアの一元化という課題については、どういう形がいいのかというのは、かなり前から区の中でも話し合いがされてきたかなというふうに認識しております。東京都で見ますと、やはり東京都のボランティアセンターはかなり広範囲に、福祉に限らず、いろいろなことを集約してやっているかなというふうに思っております。品川ボランティアセンターは、特に今のところ福祉中心ということで、なかなか広範囲を扱うには、体制なども考えないとならないかなというふうには、個人的には思っております。区民の方でボランティアをやりたいという方も、やはり入口が1つのほうが分かりやすいというのは確かだと思います。ただ、今の状態で、そのまま渡すというのは厳しいかなというふうに認識しております。ボランティアセンターがその入口となるためには、もう少し、品川区、それから社会福祉協議会と話し合いをする中で決定していかなければいけない問題かなというふうに認識しております。

○渡部副委員長

ありがとうございました。課長がおっしゃるとおりだと思ひまして、今の体制ではなかなか厳しいのかなど。だけれども、ここ数年の社会福祉協議会の中のボランティアセンターの登録団体を見ますと、いわゆる子育て関係、福祉といえば福祉なのですが、外遊びグループですとか、いわゆる清掃活動グループですとかも参加されているようです。それで、CSRのほうとの連携なども進んでおりますので、なかなか体制としては福祉に限らずというようなシフトになっているのかなというふうには感じています。

ただ、もう課長がおっしゃったとおりで、やはり区としての考え方があって、それを、では社会福祉協議会のほうでできる体制を組んでもらわなければなりませんので、そこを何とか、今日は副区長も部長もいらっしゃいますので、進めていただきたいという思いだけ伝えさせていただいて終わります。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

よろしいですかね。

ほかになければ、以上で、特定事件調査を終了いたします。

2 報告事項

ホスピタリティハウス「しながわハウス」について

○石田（ち）委員長

次に、予定表2の報告事項を聴取いたします。

ホスピタリティハウス「しながわハウス」についてを議題に供します。

本件につきまして、理事者よりご説明願います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

私から、ホスピタリティハウス「しながわハウス」についてご報告を申し上げます。資料をご覧くださいませ。

本年度予算では、しながわハウスというものを開設する予定がございました。これは、東京2020大会期間中に、区内の大使館・領事館や、区と関係のある自治体、それから品川区自体のいろ

いろいろな文化や観光などの魅力を発信して、にぎわいを見せる施設として開設する予定でございました。場所は、スポル品川大井町、こちらのフットサルコートを2面お借りして、そこに仮設のテントを建設して開設するというので、予算額としても4億円を超える額で計上していたところでございます。

ご案内のとおり大会が来年に延びまして、本大会も簡素な大会ということをもットーにしております。それに加えて、大会自体がどうなるかということもございます。ということで、なかなかJRとの協議を今後も続けていくですとか、予算のことも勘案した結果、しながわハウスをスポル品川大井町で開催するというのは難しいということで判断させていただきました。

今後は、スポル品川大井町以外での開催を検討するというので、例えば、東品川清掃作業所の跡地ですとか、スクエア荏原などの場所を検討して、簡素な大会に合った、私どもからのメッセージを発信できるような形でのしながわハウスを、改めて来年検討したいというふうに考えております。

○石田（ち）委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等あれば、ご発言願います。

○安藤委員

ご説明いただいたのですけれども、スポル品川大井町でやると簡素な大会に沿った形にならないからということなのでしょうか。ちょっとよく分からなかったのですね。お伺いします。

あと、スポル品川大井町の閉鎖時期との関係というはあるのでしょうか。伺いたいと思います。

それと、事業予算が4億1,000万円余を予定していたのですが、これは一旦、減額して、来年考えるということになると思うのですけれども、もともとこの予算というのは、出どころというのはどこでしたかということをお伺いします。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

スポル品川大井町で開催する場合は、仮設テントをそこに建設することになります。かなり多額な費用が必要になるということと、スポル品川大井町を借りる金額も出てきてしまうということで、予算額も4億円という安い額ではないものでございますので、もともとある施設で行うことで、その分も経費は削減できるだろうという判断がございまして。

それから、スポル品川大井町の閉鎖時期なのですが、まだ公式には発表になっておりません。一応、オリンピック・パラリンピックが終了するときというふうなことでしたが、1年延びたので、そこはどうかということところは、まだこれから発表があるのかなというふうに思います。その関係もございまして。

それから、事業予算に関しまして、これは6月補正で一旦不用のものは減額を行ったところでございます。

○石田（ち）委員長

予算の出どころ。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

こちら、4億円余は、一般財源と、あとは、都からの補助金等もございまして。一般財源の中で、文化スポーツ振興基金のほうから、お金は用立てているところでございます。

○安藤委員

いろいろな行政需要、行政が今、取り組まなければいけない優先順位とか、あるいは、社会情勢などに鑑みて簡素にしていくというのは妥当かなというふうに思いますので、この方向でいいと思うのです。

けれども。確認なのですが、確かにスポル品川大井町でやると多額の費用がかかってしまうということはよく分かりましたけれども、スポル品川大井町の閉鎖時期との関係ではないと。今回、その関係で場所を移すというわけではないということでもいいのかというのを確認させてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

一義的には、まず金額の問題。それから、これから交渉を続けていくにあたって、実際に実施されるかどうか分からないといえますか、流動的なものの交渉の困難性というものもございますので、このような判断に至ったということでございます。

閉鎖時期に関しましては、まだ公式な発表がございませんので、そちらのほうは影響しているというふうには認識しておりません。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○こんの委員

スポル品川大井町を使わないという理由もよく分かりました。そこで、例示として挙げられた、ではどこの場所を使っていくのかということところを少しお聞きしたいのですけれども、先ほど、東品川清掃作業所、あるいはスクエア荏原というところが例として挙げられたのですけれども、そもそも、このホスピタリティハウスを設置する目的として、「区民や来訪者によるにぎわいを創出」というところを考えると、ちょっと端っこすぎないかなというのは非常に感じる場所です。では、ほかにアクセスのいい場所はどこにあるかと、具体的に私は今出せないのですけれども、この辺かなと例に挙げたのは、何か、こういうところがあるからこれをと、例に挙げている理由を教えてくださいたいと思います。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

区民が来訪者の方におもてなしをするというので、やはり、大井町近辺が一番、区の真ん中、へそに当たる部分ですので、そのあたりでということはもちろん検討はしたのですが屋根があってアクセスがよくてというところがなかなか思い浮かびませんでした。それがまず第一でございます。屋根があってアクセスがしやすいところということで言いますと、東品川清掃作業所の跡地というのは、天王洲アイランドのところで、お台場地区の競技場からりんかい線で1本、ヘリテッジゾーンといいまして、代々木のあたりの会場ですね。そちらへも行く途中でございます。また、モノレールで、飛行機で来られる方も通るところというふうに、交通の要所としては、品川区の中でもピカイチかなというのは感じております。ただ、もともと清掃作業所でしたので、臭いの問題ですとか、あと、そもそもそうしてたくさんの方が集まることとして使えるのかですとか、いろいろな課題がございまして、1つとしていいなというふうに思っているのですが、まだ決めかねているという状況でございます。

そのほかに、屋根のあるところできるといいますと、きゅりあんとかスクエア荏原というのが候補として考えておりますが、なかなかきゅりあんを長期間借りてというのは、一般の利用者の方もいらっしゃいますので、ちょっと厳しいかなと。その点、スクエア荏原のほうが、若干借りやすいかなというのと、前方に公園もありますので、そこの融合性といいますか、使い勝手としては非常にいいなというふうには感じているのですが、場所的に、来訪者がそこを通るのかと言いますと、なかなかそこは厳しいところだということで、場所も含めて、今、本当に検討中ということで、今挙げた2か所は頭の中にあるということで、例示として挙げさせていただきました。

○こんの委員

分かりました。今、課長がおっしゃってくださった、私も、東品川清掃作業所、アクセス的にはいい

だろうなというふうに思ったのですが、そもそも清掃作業所なので、いろいろと、屋根があるにしても、これからそこをおもてなしハウスにするには、結構なレイアウトなりをしなければいけないのだろうなと思っていたところですよ。ですので、場所としてはいいのだけでも、そうすると、建物的にはスクエア荏原かなという、ただ、アクセスはどうかという、非常に悩ましいところですね。

私も具体的な、ここはどうですかという提案ができないのであれですけども、ご苦労されながらその場所を選定されているということはよくわかりましたので、一番はアクセスがいいというのが1つだと思いますし、簡素で負担をかけないようにするということだと、やはり、このスポル品川大井町でやる費用よりもかなり抑えてやるということだと、やはり、場所的に、それほどかからないところを選ばないといけないというところだと思うので、わかりました。ご苦労かと思いますが、何とかホスピタリティハウス、そうした意味で、区民の、また来訪者のにぎわい創出というところで、ご検討を頑張っていたきたいというふうに思います。応援で終わります。

○鈴木（真）委員

私もこんの委員と同じ考えで、人の集まるという場所に、ぜひ検討していただきたいなど。ただ、今、課題もあるでしょうし、東品川のところはたしかトイレもないような状態で、結構費用がかかるのではないかなとちょっと思いながら聞いていました。

別の質問なのですが、事業予算が4億1,500万円余で出ているのですけれども、これは当初ですよ。補正しても、確かこれは2定で3億7,000万円くらいはたしか落としているので、こういう資料はこういう表示でいいのかなというのがちょっと思ったのですが、やはりこれは補正後の、現在の数字を出しておかないとおかしいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

委員ご指摘のとおり、今の予算としては落としているので少ないのですけれども、そうすると、当初予算との比較で高額でしたということを示したいので、これは年度当初の予算で表示させていただきました。

○鈴木（真）委員

わかりました。当然、当初というのは分かるのですけれども、ちょっと表示しておいてもらいたかったというのと、これは補正予算のときの委員会で、私、区民委員会に出ていないので分からないのですけれども、差額で4,500万円ぐらい残っているのですよね。これはどういうふうに。補正予算審査でやったのならごめんなさい。補正予算審査のときの委員会の質疑、自分が入っていなかったので分からないのですけれども、残りの約4,500万円というのは、今どういう感じに見込んでいるのですか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

こちらは、今後の新しい施設を考えるとときの企画費用ですとか、あとは、ちょっと先行してスポル品川大井町のほうも動いていた部分もございますので、そのあたりにかかっていた経費の精算等で使わせていただく予定です。

○鈴木（真）委員

具体的に、逆に、このスポルをやめたことによって、どのぐらい、もう既に出てしまったのかなというのが分かれば、その数字を教えてもらえればと思うのですけれども。

これから出るものもそうですけれども、予定している数字が出してもらえるのであったら教えてもらえますか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

こちらが、一緒にやっていた事業者も、延びたことで非常にばたばたしてしまっていて、まだ決定した額が出ていないところがございます。出ましたら、また何らかの形でお伝えはしていこうと思います。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○筒井委員

大会も簡素化されるという方向で、それに伴っての経費削減、既存施設の利用ということで、そうした経費削減を図っていくということは非常にいいことだと考えております。現状、東品川作業所跡地なのか、スクエア荏原なのか、ちょっと分からないところはあると思うのですが、一体どのくらい削減できるものなのでしょうか。何となくの具体的な削減の数値目標というのはあるのでしょうか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

具体的な数字で示すことは、今、困難なのですが、仮設テントを使わないですとか、賃借料ですね、そういうのがないということは、削減はできるかなと思います。それとともに、簡素な大会ということで、スポル品川大井町で今年やる予定のときは、開催期間中、ずっと開けているつもりだったのですね。平日も運用してやるような予定でしたが、そのあたりももう一度見直して、本当に毎日やるのが適切なのか、毎日やるとしても夜だけにするのかとか、いろいろな手法もございますので、そのあたりも含めて、簡素な大会に合った形の行政需要を満たすような形での予算立てを、来年度予算についてこれから要求をしていきたいと思っております。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○新妻委員

ご説明ありがとうございました。

ホスピタリティハウス「しながわハウス」ということで、簡素化されることに伴って、お金のかからない方向性をご検討いただいているということでもあります。今、ご提示いただきました東品川清掃作業所跡地、スクエア荏原、これも課題を抱えながら、ここの2つがどうかということでご提示をいただいておりますが、検討されたかどうかということなのですけれども、例えば、大井ホッケー競技場に近いところには、しながわ水族館や、品川区の施設ではありませんが大井競馬場、またしながわ区民公園もあります。このようなところをご検討された経緯があるのかどうか、教えていただきたいと思いません。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

大井ホッケー競技場の近くということでございます。大井競馬場あたりは少し考えてみたこともございますが、なかなか、やはり屋根がある施設でとか、そういったことが難しいということで、区民公園等も、そこは検討の俎上には上がっていないところございました。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

ご発言がないようですので、以上で、本件および報告事項を終了いたします。

4 その他

(1) 議会閉会中継続審査調査事項について

○石田（ち）委員長

次に、順番を入れ替えまして、予定表4のその他を行います。

初めに、(1)議会閉会中継続審査調査事項についてでございますが、お手元の申出書(案)のとおりでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○石田(ち)委員長

ありがとうございます。では、この案のとおり申し出をいたします。

(2) その他

○石田(ち)委員長

次に、その他で何かございますか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

それでは、私から、キャナルアートモーメント品川2020についてのご案内を申し上げます。資料をご覧くださいませ。

こちらは、10月10日、11日の2日間、品川区と天王洲・キャナルサイド活性化協会の共同主催ということで開催するイベントでございます。こちら、本来は、東京2020NIPPONフェスティバルという取組がございまして、それは大会組織委員会と、各自治体であったりとか、実施団体が共催ということで、オリンピック・パラリンピック期間中に文化の面で盛り上げようという企画でございまして、そちらで実施する予定でございました。8月の、ちょうどパラリンピックの期間にやる予定で予算も計上していたところでございます。しかしながら、東京2020大会が延期になりまして、こちらのイベントも秋に移行をしたものでございます。天王洲の運河上に係留した台船の上で、大井権現太鼓ですとか、しながわ2020スポーツ大使の大前光市さんのダンス、それから、日本舞踊の花柳輔太郎さんの踊りなどを実施します。それとともに、運河沿いのビルにプロジェクションマッピング等を投影しまして、日本文化とアートの発信と体験という意味では、かなりレベルの高いといえますか、品川の水辺のすばらしさを世界中に発信できるものかなと思っております。

こちらのイベントなのですが、去年も同様のものはこの地でやっております。そのときは、数千人という方が来場されているのですが、今回は、実際のリアルのほうは本当に少ない人数だけが予約で入れるようになっておりまして、それ以外に、自宅で、パソコンやスマートフォンでご視聴いただけるというのが売りといえますか、そこを見ていただきたいと思っております。パソコン上で、会場にいるかのような、Googleのストリートビューのような形で入れまして、ご自分が入ったところで360度、マウスでクリックすることで、自分の周りが見られるというような仕掛けになっております。8月に天王洲キャナルフェス2020夏というのがあったのですが、そのときに、同様にウェブで配信をしたのです。地域の団体の方のダンスなどをビデオで配信したのですが、非常に画像がきれいで、私も本当にびっくりするぐらいきれいだったのです。今回も期待できますので、ぜひ、皆様にもパソコン上でご覧になっていただけたらなと思っております。

こちら、10月10日と11日、18時から20時、このとき、品川区内で様々なイベントが開かれていると思いますが、こちらはウェブ上で見ていただければと思っております。

○石田(ち)委員長

説明が終わりました。

本件に関しまして、ご質疑等がございましたらご発言願います。

○安藤委員

こういうご時勢なので、文化を盛り上げていくというか、支援していくというのも含めて、大事なことではないかという基本認識があります。

確認したいのですけれども、時期が、当初はパラリンピック期間にやる予定だったのが今回ということになったわけですが、改めて、今回、何を目的にして実施するイベントになるのかというのを確認したいのと、経費的なことについても伺いたいのですが、全体として幾らかかって、その中で品川区が支出する割合というのはどれぐらいなのかということだけ確認させてください。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

当初は8月の終わり、パラリンピック期間にやる予定でございました。東京の品川の水辺を世界中に、そこから文化を発信しよう、水辺のすばらしさを世界中にお知らせしたいというような目的で実施しているものでございます。

当初、8月だったものを10月に変更したのは、パラリンピックが延期になってしまったので、そこにやるよりも、秋ぐらいでしたらもう少し収束しているかなというような思いもございまして、10月に変更したものでございます。

費用的な面なのですが、全体額としては5,000万円を超す額になっております。その中で、品川区の負担額は4,500万円でございます。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

○筒井委員

こうした完全予約制での取組、そして、こうしたオンラインでの配信なのですけれども、私は東京若手議員の会という会に所属しております、そこで危機管理の専門家の方からお話を伺う機会がありまして、やはり今後、コロナウイルス、ウィズコロナということになると、こうした予約制、予約社会になっていくだろうということを伺いましたので、早速、品川区のこのイベントもこうした完全予約制になっていくということで、ウィズコロナの対応に備えているのかなと思いました。

そして、予約されなかった方は自宅で楽しむ、オンラインで楽しむということなのですけれども、8月でも同様な取組をやられたということなのですけれども、このオンライン配信の視聴者数はどのくらいだったのか、その数は把握されていますでしょうか。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

8月のチャナルフェスは、品川区は金銭的には入っておりませんので、視聴者数に関しては、こちらは把握しておりません。今回は私どもが入るので、必ずそこところはやるのですが、YouTubeですと、後からアーカイブで残して視聴するということができるのですが、こちらに関しましては、楽曲の著作権の問題などもございまして、それが残せるかどうか分からないので、ひょっとしたらリアルだけで、そのときに見るのが何百人になるのかというようなところでございます。

○筒井委員

分かりました。オンラインでやる取組は非常に良いと考えているのです。やはり、いつもほかの場面でも述べることなのですけれども、周知などをしっかり、ぜひ行っていただいて、なるべく多くの方が楽しめるよう取り組んでいただきたいと思うのです。この点、周知は具体的に今後どうされていくのでしょうか。その点をお伺いします。

○辻オリンピック・パラリンピック準備課長

本日ご案内したのは、こちらのチャンネルアートモーメントというイベントでございまして、同時開催で、天王洲チャンネルフェス2020秋というのを、やはりオンラインでされるのですね。地元の方がやられまして、地域の団体とか、子どもたちがそこでダンスなどをして、それを映像で、ウェブで流すという取組をしております。そうしますと、団体のメンバーのご家族ですとか、知り合いの方が視聴して、そこからまた引っ張って、こちらにも見ていただくというような仕掛けも作っているところがございます。あとは、普段どおりになってしまうのですが、広報しながら、それからチラシ、あとは私どものSNS等では周知をしまして、素晴らしい企画ですので、1人でも多くの方に見ていただきたいなと思っております。

○石田（ち）委員長

ほかにいかがでしょうか。

ほかにご発言がないようですので、以上で、本件を終了いたします。

ほかに、その他で何かございますか。

特にないようですので、以上で、その他を終了いたします。

3 視察

○石田（ち）委員長

最後に、予定表3の視察を行います。

これより、所管事務調査項目のレガシー政策に関することとして、ビーチバレーボールの競技会場である都立潮風公園へ視察にまいります。詳しい説明につきましては、現地にてお願いをしております。

今回の視察を踏まえ、時期はまだ調整中ですが、今後の委員会で、ビーチバレーボールの振興や普及、応援に関して議論を行う予定にしておりますので、委員の皆様におかれましては、そのことを念頭に置いて視察に臨まれるよう、よろしく願いいたします。

なお、競技会場内の撮影、またSNS等への発信は禁止されておりますので、くれぐれもご注意ください。

休憩の後、視察にまいります。

委員および視察に同行される理事者は、午後1時に、第三庁舎2階のマイクロバスにご乗車ください。放送でもご案内いたします。

なお、視察後、当委員会室へは戻らない予定ですので、お荷物はお持ち帰りいただきたいと思っております。それでは、会議の運営上、暫時休憩いたします。

○午前11時47分休憩

〔視察場所：都立潮風公園（ビーチバレーボール競技会場）〕

○午後2時33分再開

〔車中にて再開後、閉会を宣する〕

○午後2時33分閉会